



聖書箇所:イザヤ書8章11~22節

「曙の光 -キリスト-」

【1】 誰を恐れているのか？

- ・南王国ユダの王アハズが恐れたもの
- ・神が預言者イザヤに求めた生き方 (イザヤ8:11, 12)
 - ― 一時流に逆らっても神のことばに信頼すること
 - ― 謀反と見做されても神への信頼を放棄したアハズに追従しないこと
- ・真に恐れるべき方 (イザヤ8:13)
 - ― 信仰者は恐れ知らずの無鉄砲？
 - ― 恐れるべき相手が異なる
 - ▶ ご自分の民を救い、その敵を打ち倒し、罪ある人間が気軽に近づくことの出来ない聖なる方への恐れ (出エジプト3:5; 14:30~31; 19:20~22; 20:18~21)
- ・信仰者の最も安全な場所 = () がご臨在くださる場所

【2】 みことばに聞くとは

- ・「聖書は誤りのない神のことば」(JECA 信仰告白第1条)
- ・「この証しの書を束ねよ」「封印せよ」(イザヤ8:16)
 - ― 自分たちの都合に合わせてみことばを変更・加筆しないように
- ・みことばに信頼しない者 (19-22)
 - ― 自分にとって都合の良い神、「霊媒、ささやき、口寄せ」(19)に尋ねる
 - ― その結果は悲惨 (20-22)

【3】 曙の光—キリスト—

- ・信仰者も「御顔を隠しておられる方」を前に悶え苦しむことがある
 - ― 「曙の光」を待ち望む信仰者は絶望しない
- ・救い主キリストの誕生を待ち望む
 - ― 主イエスの誕生は、暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らすために、曙の光がいと高き所から私たちに訪れた出来事(ルカ1:78~79)。

▷ 主を待ち望む人は、暗闇の中にあっても絶望しません。それは私ではなく神のことばに信頼を置くからです。

